

ダニ媒介脳炎ワクチンについて

作成日 2016年10月21日

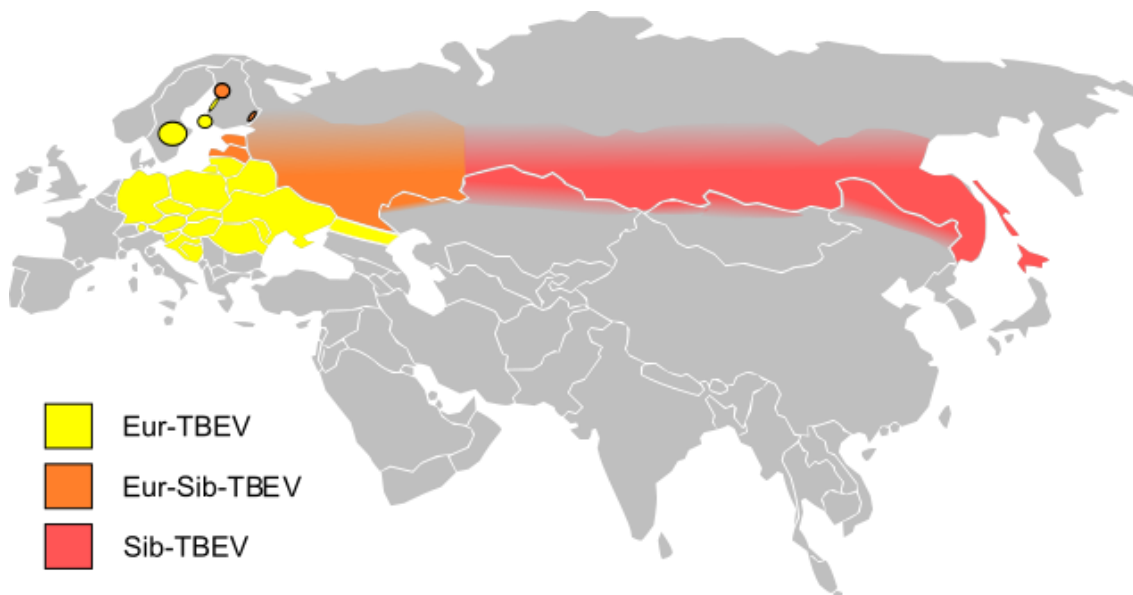
1. ダニ媒介性脳炎について

ダニ媒介脳炎はダニ媒介脳炎ウイルスによる感染症で、ウイルスを保有するマダニに刺咬されることによって感染します。また、感染した山羊や羊等の未殺菌の乳を飲んで感染することもあるとされています。通常、人から人に直接感染することはありません。ダニ媒介脳炎にはいくつかの種類があり、その主なものとして、ロシア春夏脳炎、中央ヨーロッパ型ダニ脳炎があり、流行地では、この病気にかかるリスクの高い方（野外で活動する機会の多い方など）に対してワクチンの接種が行われることもあります。

症状は、中央ヨーロッパ型脳炎では、発熱、筋肉痛などのインフルエンザ様症状が出現し、2～4日間続きます。そのうちの約3分の1は、髄膜脳炎に進展し、痙攣（けいれん）、眩暈（めまい）、知覚異常などがみられます。ロシア春夏脳炎では、高度の頭痛、発熱、悪心などの後、髄膜脳炎に進展します。発症した場合の致死率は、中央ヨーロッパ型脳炎では1～2%、ロシア春夏脳炎は20%といわれており、回復しても数割の方で神経学的後遺症がみられます。

2. ダニ媒介脳炎の流行地域

中央ヨーロッパおよび東ヨーロッパの多くの国々で流行しています。国内では、北海道の一部地域において分布が確認されています。このような地域で、マダニが生息する地域になります。一般的に、マダニは、沢に沿った斜面や森林の笹原、牧草地などに生息し、家の中や人の管理の行き届いた場所にはほとんど生息していません。



3. ダニ媒介脳炎の予防

病原体を保有するマダニに咬まれないようにすることが最も重要です。

したがって、流行地域など、病原体の存在が知られている地域において、草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、**長袖、長ズボン**を着用し、**サンダル**のような肌を露出するようなものは履かないことが大事です。忌避剤の併用も効果が期待されます。さらに、野外活動後は入浴し、マダニに刺さ

れていないか確認すること、マダニの咬着が認められた場合は、皮膚科などでマダニの頭部が残らないように除去してもらうことも重要です。

また、ダニ媒介脳炎の流行国では、マダニが生息する森林地帯に入るなど、感染する危険性のある方に対して、不活化ワクチン) の接種が行われることもあります。

4. ダニ脳炎ワクチン

	FSME-IMMUN®
会社	Baxter(夙)
販売開始	1976～
投与経路	筋肉注射
投与量	0.5ml
内容量	2.4μg (小児は 1.2μg)
回数	3 回 (2 回目：1-3 ヶ月後、3 回目：2 回目から 5-12 ヶ月後)
効力	3-5 年
追加接種	最初は 3 年以降 5 年(50 歳以上は 3 年)
加速法	0-14 日目、5-12 ヶ月後ブースター
禁忌	本ワクチンに重度アレルギー、中等度以上の急性疾患、卵白アレルギー
妊婦・授乳婦	FDA class C、必要性が安全性を上回る場合を除いて禁忌
効果	3 回接種でほぼ 100%
副作用	発熱 1.2%、局所疼痛 25%、筋肉痛 7.5%、頭痛 6%

ワクチン推奨者

- ・長期的にリスク地域に駐在もしくは滞在する予定のある 1 歳以上の渡航者。
- ・特にバックパッカーや冒険旅行などを目的として野外での宿泊をする渡航者。
- ・オーストリアではリスク地域滞在のみなら発症は 1 ヶ月で 1/1000 程度。
- ・ドイツとスイスとオーストリアは国内推奨されており、オーストリアは乳幼児に定期接種になっている。